2018年8月18日（土）　インド大使館　ウパニシャッド（第24回）

**≪ウパニシャッドの助言≫**

前回はカタ・ウパニシャッドの第１９節まで終わりました。今日は第２０節からです。前回お話ししたように、第２０節から本当のウパニシャッドが始まりますが、その前に、ウパニシャッドの一番大事な助言についてお話しします。その助言とは次の言葉です。

**Ātmānam Viddhi** （アートマーナㇺ・ヴィッディ）

「私は誰ですか。それを理解してください」、それがウパニシャッドの大事な助言です。

自分の名前、性別、結婚、家族、国、宗教、仕事などが、皆さんが考える自分についての普通のイメージではないでしょうか。しかし、それが答えだとしたらウパニシャッドのその助言は意味を成しません。ウパニシャッドの助言は深い意味を持っています。自分についてもっと深く調べてください。それがウパニシャッドの助言です。

科学的に見ると自分について肉体的なイメージが出ますね。私には心臓や肺や肝臓などがあります。では、ウパニシャッドはあなたの心臓や肺のことを理解してくださいと言っているのでしょうか。ウパニシャッドの助言はそうではないですね。肉体的なことではないです。

では、もう少し深くに入ります。そうすると心がありますが、心は普通の道具で見ることはできませんね。もっと深くに入りますと知性があります。それも見ることはできないです。脳は見ることができますが知性はもっと深いものです。さらに、記憶もあります。そして自我もあります。

自分の中の存在を識別しますとだいたいそれらのことがわかります。見ることができなくても深く分析しますと心があり、知性があり、記憶があり、自我があることがわかります。しかし、私についてそれだけで十分でしょうか。それが私についての完璧なイメージですか。

普通の人がわかるのはそこまでです。しかし、ウパニシャッドは、自分をもっと深く見てくださいと言っています。それは難しいです。それから先のイメージが出ません。そして自分について混乱が出ます。

**＜亡くなった後のことについての疑い＞**

もう一つの混乱があります。それは亡くなった後どうなるのかということです。それについてたくさんの疑い（疑問）があります。亡くなった後に自分の或る部分は存在を続けているのでしょうか。それとも全部なくなってしまうのでしょうか。

亡くなった後、自分のすべてがなくなると思う方は挙手してください。［挙手した人はいない］ 誰もそう思う人はいないですね。では、亡くなった後、すべてがなくならないで或る部分は存在を続けているということはどうしてわかりますか。

皆さんに亡くなった経験はまだありませんね（笑い）。それでは、亡くなった後にこちらに戻って皆さんの前で「私は亡くなりましたが、確かに私の或る部分は存在を続けています」と言った人を見たことがありますか（笑い）。ないですね。ではどうして存在を続けていると考えますか。（参加者Ａさん）聖典を読んでそう信じています。

このことについての証明はないです。ここでいう証明とは「本当に自分の目で見ました、自分の耳で聞きました、自分の経験があります」という意味です。

聖典の中にあっても本当はどうなのかと混乱することはありませんか。例えば、イエスは一つのパン、一つの魚で大勢の人に食べさせたとあります。普通は信じるのが難しいではないですか。そして、クリシュナは子供でしたけれども、山を持ち上げたと聖典にあります。それは普通に考えると非論理的ではないですか。

聖典の中にありますけれど、自分の経験がないですから、何を信じ、何を信じないかという混乱がありませんか。また、我々は聖者の言うことですから聖典の言うことを信じていると言いますけれども、本当はその信仰は浅いものではないですか。

科学者は証明が必要だと言います。インドにも昔は物質的な哲学者もいました。今の科学者もその哲学者と同じです。その物質的な哲学者は、バスニーブータスチャデーハスチャ（正確には音声データでご確認ください）と言っています。

それは「燃やして灰になった身体が元に戻りますか」という意味です。もちろん元には戻りません。無理です。例えば、或る建物を燃やしました。次の日、同じ場所にその建物が戻ったのを見たことはないですね。本当に燃やしましたからそのものは１００％なくなります。

身体は物質的で粗大的なものですが精妙なものもありますね。心、知性、自我があります。では、それらは身体がなくなった後どうなるのでしょうか。物質的な哲学者は、心、知性、自我、魂はみな身体の副産物（バイプロダクト）であり身体と別の存在ではないという考え方です。つまり、彼らによれば、身体がなくなれば全部なくなるということです。

「自分の本性は何か」（「私は誰ですか」と同意）について、或る人の考えでは「身体と心」だけです。別の人の考えでは「自我」もあります。また別の人の考えでは「魂」もあります。そのようにさまざまな意見があり、「自分の本性が何か」については疑問のままです。

「自分の本性は何か」と同じように、「亡くなった後の状態」についても疑問のままです。それで、ナチケーターはそれについて質問をしています（第２０節、後述）。

人が亡くなりますと、哲学のことだけでなく、悲しみのことがたくさんあります。例えば、身内の人が１時間前にはいましたが突然亡くなりました。その人は身体がありますけれども亡くなっていますから話しをすることもできません。そしてその人を燃やしますと大きなショックではありませんか。

亡くなった人と自分との間に、心、感情、経験、記憶などたくさんの関係がありましたから、その人が亡くなることは、哲学だけでなく自分の人生にも関係があります。それでその質問（亡くなった後どうなるのか）の答えがとても大事になります。科学者の言う物質的なことを調べてもその答えは得られません。

自分の愛した身内の人が突然いなくなりました。その人はどこへ行きましたか。その質問は自分についても当てはまります。哲学の質問というだけでなく、それは自分の人生にとって大事な質問ではないですか。なぜなら、それについて悲しみ、苦しみ、恐れ、死の恐怖が出ていますから。ナチケーターの質問はそのことについての質問です。

「**私の本性は何ですか（アートマーナㇺ・ヴィッディ）**」それがウパニシャッドの内容です。ナチケーターの質問（**亡くなった後存在し続けるものはあるのか**）はそれと同じことです。

ナチケーターはヤマにその質問をしています。では、ナチケーターとヤマとの組み合わせ（ペア）は、我々がお坊さんに質問する場合と何が違いますか。それは、ナチケーターについて言いますと「ヤマの答えを理解する準備ができている人」だということです。

例えば、あなたはアインシュタインにＥ＝ｍｃ２とは何ですかと尋ね、アインシュタインがそれに答えたとします。しかし、あなたに準備がなければあなたはその答えを理解することができません。その可能性がありませんか。

ヤマの答えはとても複雑で、とても精妙で、とても深いものですから、それを理解する準備が大事です。ナチケーターにはその準備がありました。ですからナチケーターは特別です。

では、ヤマはどうでしょうか。ヤマは自分が悟った人ですから自分の経験があります。ですからヤマも特別です。そしてこのペア（ナチケーターとヤマ）は特別なペアです。両方が特別であることを理解してくだい。それでは第２０節に入ります。

**≪カタ・ウパニシャッドPart 1 – Chapter 1 第２０節≫**

***yeyaṁ prete vicikitsā manuṣye-’stītyeke nāyamastīti caike;***

***イェーヤㇺ　プレーテー　ヴィチキッサー　マヌシュエー‐スティーティエーケー　ナーヤマスティーティ　チャイケー；***

***etadvidyāmanuśiṣṭastvayā’haṁ varāṇāmeṣa varastṛtīyaḥ.***

***エータッﾄﾞ ヴィッディヤーマヌシシュタスㇳヴァヤーハㇺ　ヴァラーナーメーシャ　ヴァラストゥリティーヤㇵ***

［「カタ・ウパニシャッド カタカナ読み表示と日本語解説」のサンスクリット語のカタカナ表記をマハーラージが最初に少しずつ唱えて皆がそれに続き唱え、最後にマハーラージと皆が一緒に唱える。以下の第２１節についても同様です。］節の語を分けます。

前段の「yeyaṁ prete vicikitsā manuṣye-’stītyeke nāyamastīti caike」は、「yā iyam prete vicikitsā manuṣye asti iti eke na ayam asti iti ca eke」（ヤー　イヤㇺ　プレーテー　ヴィチキッサー　マヌシュエー　アスティ　イーティ　エーケー　ナ　アヤㇺ　アスティ　イーティ　チャ　エーケー）になります。つまり、manuṣye-’stītyekeは「manuṣye - asti - iti - eke」の４語に、nāyamastītiは「na - ayam - asti - iti」の４語に、caikeは「ca - eke」の２語に分かれます。

後段の「etadvidyāmanuśiṣṭastvayā’haṁ varāṇāmeṣa varastṛtīyaḥ」は、「etat vidyām anuśiṣṭaḥ tvayā aham varāṇām eṣaḥ varaḥ tṛtīyaḥ」（エータット　ヴィディヤーㇺ　アヌシシュタㇵ　トヴァヤー　アハㇺ　ヴァラーナーㇺ　エーシャㇵ　ヴァラㇵ　トリティーヤㇵ）になります。このように、etadvidyāmanuśiṣṭastvayā’haṁは「etat vidyām anuśiṣṭaḥ（anushishutah） tvayā aham」の５語に別れます。

次に言葉の意味を説明します（意味を取るため、語を分けるとともに語の順序を変えます）。

前段の「マヌシュエー」は「人が」、「プレーテー」は「亡くなると」、「ヤー　イヤㇺ　ヴィチキッサー」は「それについて議論があります」です。「エーケー」は「或る人（は言います）」、「アスティ」は「続けています」で「アスティ　イーティ」は「亡くなった後も（亡くなった人の或る部分が）存在を続けています」です。「チャ　エーケー」は「別の人（は言います）」、「アヤㇺ　ナ　アスティ　イーティ」は「続けていません」です。

ナチケーターは、皆さんの間にそのような議論があると言いました。ナチケーターも同じようにそのことについて疑問があります。「亡くなった後も存在を続けている」と言う人がいれば、「続けていない」と言う人がいるので、ナチケーターには混乱がありました。ナチケーターはその真理を知りたいです。

後段の「アヌシシュタㇵ」は「（その真理を）教えてください」、「アハㇺ　エータット　ヴィディヤーㇺ」は「私はこれ（その真理）を知りたいです」、「トヴァヤー」は「あなたからの」、「ヴァラーナーㇺ」は「恩恵のうちの」、「エーシャㇵ　トリティーヤㇵ　ヴァラㇵ」は「これが３番目の願いです」という意味です。

今お話ししてきたように、亡くなった後の存在について二つの意見がありましたね。一つは身体を燃やした後には身体を含めて全部がなくなるという意見です。死後に続けているものはないです。科学者の考えで、燃やしたものは戻りません。副産物も全部なくなります。

もう一つは「存在し続けるものがある」という意見です。そのことが聖典の中に入っています。では、そのことを証明するようなものはあるでしょうか。

例えば、お化けを考えてください。それは弱い心で想像した産物の場合もあります。本当はお化けを見ていなくても恐くて想像で見ています。例えば、お化けの物語を読んだ後、外が暗くなりますとどこかにお化けがいるような気になります。

しかし、とても強い心の人がそれを見たことがあるという場合はどうでしょう。そしてその人は絶対に嘘をつかない人です。その人は嘘をつかず心も強いです。その人が言うことを我々は信じますね。

もう一つは霊媒者の存在があります。霊媒者の中には人をだますような者がいますけれど、本当は正しいことを言っていることもあります。もう一つは前生のことを覚えている人の例もあります。その人の言うことは全部が嘘ではありません。

もう一つは、一卵性の双子で生育環境も同じですけれども、双子同士で性格が違うことがあります。それはなぜでしょうか。

それから神童です。子供のうちから歌がとても上手、音楽がとても上手、頭がとても素晴らしい、そのようなとても特別な能力に恵まれている人がいませんか。お母さんもお父さんも全然そうではなかったならば、それをどのように説明することができますか。

普通の科学者はそれらの現象を説明することができないです。しかし、彼らが説明することができなくても実際にあります。それは前生のことを言わないと説明が難しいです。

お化け、霊媒者、前生のことを覚えている人、一卵性双生児、神童など、前生のことを言わないと説明が難しい現象があります。では、前生と今生で何が繋がっているのでしょうか。その質問に対して、「亡くなった後にも存在を続けているものがある」と答えることができます。それが「存在し続けるものがある」ことの間接的な証明です。

**＜ナチケーターが質問した理由＞**

さて、ナチケーターの二番目の願いは天国に行く方法を知りたいということでした。ナチケーターは天国があることを信じていました。死後の存在を信じていました。しかし、死後に存在し続けるものはないという別の意見があることも知っていました。ナチケーターは自分の信仰が正しいかどうかを確認したいと思いました。それが質問した一つの理由です。

質問したもう一つの理由は、亡くなった後のイメージがはっきりわからないからです。亡くなった人の存在のどの部分が天国に行くのか、また生まれることがあるならばどの部分が存在を続けているのか、もし亡くなった後に存在するならどんな形で存在するのかがはっきりとしません。ナチケーターは亡くなった後のことをはっきり知りたいと思いました。

この質問（３番目の願い）は本当に基礎的な質問です。その答えは聖典の中にありますからナチケーターはそれを勉強したことがあります。しかし、ナチケーターはその答えをヤマから聴きたいと願いました。

聖典の中には、大事なこと、大事ではないこと、想像的なこと、正しいことが混ざっているからです。シュリー・ラーマクリシュナが話された一つの面白い例えがあります。

砂の粒と砂糖の粒とは同じように見えます。ですから、それらを混ぜてしまうとどれが砂糖の粒かわからなくなります。識別は難しいですね。誰がそれを識別できますか。人間では難しいですが識別できます。誰ができますか。アリができます（笑い）。

そうするとこの場合、アリが「悟った人」です。そのように、悟った人は聖典の中にあることの何が真理かが本当にわかります。真理かどうかわからないことも悟った人自身の経験からわかります。悟った人自身の経験が大事です。それは特別なことです。そして悟った人の答えによって疑いはなくなります。

或る有名な聖典の学者がいました。シュリー・ラーマクリシュナは聖典の内容をときどき聞いたことはあっても自分で勉強したことはありませんでしたが、その学者はシュリー・ラーマクリシュナのところに来て、シュリー・ラーマクリシュナの話を尊敬を持って集中して聴いていました。その学者はどうしてそうしていたのでしょうか。

その学者の答えは面白い答えです。こう言いました、「あなたのおっしゃることは全部勉強しましたから初めて聞くわけではありません。それは勉強した聖典の中にあります。ですが、それをあなたから聴くために来ました。聖典の勉強をして、わからないことや混乱もあります。印象も出ません。あなたはご自身が悟りましたからあなたから聴きたいです」

「あなたの言うことは全部知っていますがあなたから聴きたい」、面白い答えですね。あなたから聴きますと本当に真理を確認することができます。そして、普通の聖典の学者と悟った人とから同じことを聞いても印象が全く違います。その目的でヤマは特別な方です。ヤマは自分の経験から話します。それでナチケーターはヤマに質問しました。

例えば、インドに行ったことがなく勉強だけでインドを知っている人がインドについて話をするのと、勉強したことがなくても実際にインドに行ってきた人が自分の経験を話すのとでは、話すときの顔や目の様子が全然違いませんか。そのように、「悟った人」の言葉は同じ言葉でもその力は全然違います。言葉のインパクトも波動も全然違います。

**＜知識を得る方法＞**

次に、知識を得る方法についてお話しします。知識を得るには次の６つの方法があります。

**Method of knowledge（Pramāna（プラマーナ））**

**① Pratyaksha Pramāna（プラッテャクシャ・プラマーナ）**

**Savikalpa（サヴィカルパ）／Nirvikalpa（ニルヴィカルパ）**

**② Anumāna Pramāna（アヌマーナ・プラマーナ）**

**③ Upamāna Pramāna（ウパマーナ・プラマーナ）**

**④ Sabda Pramāna（サブダ・プラマーナ）**

**⑤ Arthapatti Pramāna（アルタパッティ・プラマーナ）**

**⑥ Anupalabdhi Pramāna（アヌパラブディ・プラマーナ）**

プラマーナは「知識を得る方法」という意味です。英語でエピステモロジー（epistemology）と言っています。我々はいろいろ知ります。勉強します。しかし、そのときの方法が間違えていますとその方法で得た知識も誤りではないですか。そのため、知識を得るには何が正しい方法かについてたくさんの議論があります。それについて説明しています。

最初のプラッテャクシャ・プラマーナは「認識」（perception）です。その中にサヴィカルパ・プラッテャクシャがありますが、それは前の経験に基づく認識です。例えば、前にその場所に行きました。前にそのものを見たことがある。それも知識を得る一つの方法です。

もう一つのニルヴィカルパ・プラッテャクシャは、（前の経験はなく）現在の経験に基づく認識です。サヴィカルパは前の経験、ニルヴィカルパは今の経験による認識ですね。認識は観察（observation）と言い換えてもよいです。

次のアヌマーナ・プラマーナは「推測」（inference）です。有名な聖典に次の例えがあります。「山の上に煙が見えるとそこには絶対に火がある」高くて遠いところですから実際に火は見えないですが煙は見えます。火がないと煙はできません。そのことを知っていますから、「煙が見えれば」火は見えなくてもそこには絶対に「火がある」という結論になります。これが推測です。これも知識を得る一つの方法です。

次はウパマーナ・プラマーナです。類似性（similarity）に基づく知識です。或るものを前に見ていて、それと同じもの・似たものを見ますとそのものを理解することができます。例えば、インドで蓮の花を見たことがあり、同じものを日本で見ますとそれも蓮の花だとわかります。前に見たものと同じものを見ますとそれについての知識を得ることができます。

だいたい近いものの場合も当てはまります。前のものと今のものとが似ていますが少し違うことがあります。そうすると、どこが同じでどこが違うかを知ることができます。例えば、日本のテイカカズラに似た花がインドにありますが匂いの強さが違います。それらを比べることで知識を得ることができます。そのようにして知識を得る方法がウパマーナです。

それから次はサブダ・プラマーナです。サブダを翻訳すると「言葉」ですが、特別な意味で使っています。それは「聖典の言葉」と「悟った人の言葉」を意味します。聖典は、例えば、ヴェーダ、ウパニシャッド、聖書、コーラン、お釈迦様の教えです。悟った人は、例えば、ラーマクリシュナ、クリシュナです。それらの言葉も知識を得る方法の一つです。

悟った人に会うことは普通はありません。ですから、聖典から知識を得ることが一つの方法です。そして皆さんには聖典を勉強できるチャンスがあります。

次はアルタパッティ・プラマーナです。例えば、昼食を取っている姿を見たことがないのにだんだん太ってきた人がいます。食べなければ太ることはできないですから見ていない時に食べていることがわかります。そのようにして知識を得るのがアルタパッティです。

アヌマーナ（推測）と何が違いますか。推測は見ています。煙を見ています。そして煙と火の関係があります。しかし、その人が食べているところは誰も見ていません。それが違います。皆さんの前では食べていませんが絶対に食べています。それがアルタパッティです。

もう一つがアヌパラブディ・プラマーナです。これはちょっと特別です。前にはあったものが今はないという認識による知識です。それが「ない」ということも知識ではないですか。例えば、前はここに机がありましたが今はありません。あったものが「ない」ということもそのものについて知識です。

前に見たことがある人を今は見ない。それも知識の方法です。前に見たことがなければそのこと（今は見ない）は出ないです。その人がいない、その物がない。それも知識を得る一つの方法です。それがアヌパラブディです。

知識を得るための６つの方法を説明しました。では、「亡くなった後にも存在し続けるもの」があるということについて知識を得る方法はその中のどれでしょうか。それは**サブダ・プラマーナ**ですね。さきほど聖典から勉強しましたという賢い方がいましたが、その勉強の方法がサブダ・プラマーナです。

他の方法が該当しないことを一つずつチェックしてみてください。「死後に存在し続けるもの」を前も今も誰も見たこともありませんし経験もないですからプラッテャクシャは該当しません。そのものについて煙と火のような関係もないですからアヌマーナも該当しません。

そのものに類似する何かについての経験もありませんからウパマーナも該当しません。そのものについて、太ったのは見ていない時に食べているからだと理解するようなこともありませんからアルタパッティも該当しません。そして、そのものについて、前に見たことがありますが今は見ないということもありませんからアヌパラブディも該当しません。

普通の人が存在し続けるもの（魂）についての知識を得る方法は一つだけです。それがサブダ・プラマーナです。もちろん自分で悟れば分かりますが、それはサブダ・プラマーナではありません。サブダ・プラマーナは、聖典の言葉と悟った人の言葉から知識を得る方法です。

神様や真理のことについて講演する人はたくさんいますしその種類の本もたくさんあります。しかし、それらはサブダ・プラマーナですか。違いますね。

普通の学者が書いている本と聖典、例えば、ヴェーダ、ウパニシャッド、バガヴァッド・ギーターとは何が違いますか。両方とも真理のことを言っていますが違いは何ですか。サブダ・プラマーナは何が特別ですか。

さきほどのシュリー・ラーマクリシュナを訪ねた学者の話を思い出してください。シュリー・ラーマクリシュナのおっしゃることはサブダです。悟られましたから。ラーマクリシュナの福音、それはサブダです。聖典の中には悟った人の言葉が入っています。バガヴァッド・ギーター、ヴェーダ、ウパニシャッド、聖書もサブダです。

普通の学者は言葉上手に書いていますけれどその人は悟ってないです。そうするとインパクトが全然違います。同じ真理のことについて書かれていますが、学者の本は一回読めばもう読みたくないです。では、なぜラーマクリシュナの福音は何回も何回も読みたくなるのでしょうか。なぜ、聖書、お釈迦様の教え、バガヴァッド・ギーターは何度も何度も読まれ、古くなることがないのでしょうか。

**違いは、「悟った人」から出ているか、悟っていない人から出ているかです**。それが全然違います。それがサブダ・プラマーナが特別である理由です。

しかし、悟った人かどうかはどのようにしてわかりますか。その基準は普通の人にはわからないです。或る人が私は悟りましたと言ってもそれが真実か否かはわからない。本人の言葉や私のグルは悟った人ですという広告だけで信じることができますか。悟りはとても精妙なものですから証明が難しいです。

でも、皆さんが理解することのできる基準があります。一つの基準はその人が本当に純粋な人がどうか、すなわち、感覚と心のコントロールが１００％できている人かどうかです。怒りのコントロール、エゴのコントロールができているかどうかはその人を観察すれば分かりますからそれほど難しくありません。その人に怒りやうぬぼれがあるかは分かりますね。

もう一つの基準はその人が利己的な人か非利己的な人かです。利己的な人はいろいろ世俗的な目的を持っている可能性があります。それからもう一つの基準は、その人が嘘をついていないか、１００％真実を語っているかどうかです。

その３つの基準、「純粋（浄らか）」、「非利己的」、「嘘がない」で判断すれば、我々はその人の言葉を信じることができかどうかが分かります。もちろん、その人が悟った人かどうかまでは分かりませんが、その３つの基準で皆さん理解することができます。

シュリー・ラーマクリシュナはその種類の方ではないですか。本当に純粋で、全く嘘をつかず、１００％非利己的で、そして普遍的な愛を持っている方です。ラーマクリシュナの生涯を読みますとそのことがわかります。その種類の方は悟っています。その方の言葉はサブダ・プラマーナです。

そして魂があるかないか、アートマンがあるかないか、その知識を得る方法はサブダ・プラマーナだけです。別の方法はないです。そしてヤマの言葉はサブダ・プラマーナです。ヤマはその種類の方ですから。ですから、ナチケーターはそれをヤマから聴きたいです。

シュリー・ラーマクリシュナはおっしゃっています、「もしあなたは悟りますとあなたの言うことの力、あなたの教える力は、とてもとても強いです。それがないと、たくさん話しても、その話の力は全然出ません」と。

本当にそうではないですか。イエスの言葉、お釈迦様の言葉は、今もインパクトが大きいではないですか。その後にたくさんの普通の聖者の言葉がありましたけれど、そのレベルが全然違います。二千年ほど前に話されたことが今も強い力を持っています。それがサブダ・プラマーナです。その種類の人の言葉は聖典の中に入っています。次は第２１節です。

**≪カタ・ウパニシャッドPart 1 – Chapter 1 第２１節≫**

**devairatrāpi vicikitsitaṁ purā na hi suvijñeyamaṇureṣa dharmaḥ；**

**デーヴァイラトラーピ　ヴィチキッシタㇺ　プラー　ナ　ヒ　スヴィッギェーヤマヌレーシャ　ダルマㇵ；**

**anyaṁ varaṁ naciketo vṛṇīṣva mā moparotsīrati mā sṛjainam.**

**アンニャㇺ　ヴァラㇺ　ナチケートー　ヴリニーシュヴァ　マー　モーパロートシーラティ　マー　スリジャイナㇺ**

節の語を分けます。前段の「devairatrāpi vicikitsitaṁ purā na hi suvijñeyamaṇureṣa dharmaḥ」は「devaiḥ atra api vicikitsitam purā na hi suvijñeyam aṇuḥ eṣaḥ dharmaḥ」（デーヴァイㇶ　アットラ　アピ　ヴィチキッシタㇺ　プラー　ナ　ヒ　スヴィッギェーヤㇺ　アヌフ　エーシャㇵ　ダルマㇵ）になります。

後段の「anyaṁ varaṁ naciketo vṛṇīṣva mā moparotsīrati mā sṛjainam」は「anyam varam naciketaḥ vṛṇīṣva mā mā uparotsīḥ ati mā sṛja enam」（アンニャㇺ　ヴァラㇺ　ナチケータㇵ　ヴリニーシュヴァ　マー　マー　ウパロートシーㇶ　アティ　マー　スリジャ　エーナㇺ）になります。

次に言葉の意味を説明します。「アットラ」は「このテーマについて」です。このテーマとは、亡くなった後に存在を続けているものがあるかどうか、ですね。「デーヴァイㇶ」は「神」で普通の神です。「アピ　プラー」は「昔」、「ヴィチキッシタㇺ」は「疑いがありました」です。人間だけではなく普通の神も同じテーマについて疑いがありました。

「ヒ」は「なぜなら」、「エーシャㇵ　ダルマㇵ　アヌフ」は「アートマンについての知識はとても精妙です」、「マー　マー　ウパロートシーㇶ」は「私に強く頼まないでください（please do not press me）」、「マー　エーナㇺ　アティスリジャ」は「私にそのことを質問しないでください」です。

ヤマはナチケーターに３つの願いをかなえると約束しました。ですから、ナチケーターに強く頼まれたらヤマは答えないといけないです。それでヤマは頼んでいます、「答えをせがまないでください」と（笑い）。

なぜヤマはそう言っているのでしょうか。一つは、この知識はとても「精妙」（subtle）だからです。もう一つは、それゆえにこの知識を理解するための「準備」がないと聞いても分からないからです。先ほどアインシュタインの例を使ってお話ししました。

「準備」がないと理解できませんしイメージが何も出ません。聖典は「あなたは身体でない。あなたは魂です、アートマンです。あなたはサッチダーナンダ（サット・チット・アーナンダ）です、絶対の存在・絶対の知識・絶対の至福です」と言っていますが、そのイメージは出ますか。

少しはイメージが出るという方がいるかもしれませんが、それは頭で理解しているに過ぎないでしょう。頭で理解することはイメージが出ることではないでしょう。

「あなたは身体です」と言われるとすぐにイメージが出ますね。どうしてですか。なぜならば、我々は身体で食べています、話しています。ですから、あなたは身体と言われてすぐにイメージが出ます。しかし、あなたは魂ですというイメージは出ないです。

では、どうしてそのイメージが出ないのでしょうか。なぜならば、まず、我々はそれについて全く経験がないからです。魂が何かは分からないです。そして、「準備」もないからです。

今までずっと自分は身体だと信じていますから、突然に、あなたは身体ではないと言われても理解できませんね。我々は経験から自分についてのイメージは身体です。身体意識がとても強いです。あなたは魂ですと言われてもそれをイメージすることはできません。

たくさんの霊的な実践をして、身体意識がけっこうなくならないと「魂意識」は出ないです。それが「準備」です。それは想像だけでできることではありません。たくさんの霊的な実践、たくさんの抑制（コントロール）が必要です。

ギャーナ・ヨーガも同じことを言っています。「あなたはアートマンです」と言っています。しかし、ギャーナ・ヨーガはきちんと実践するのが難しいです。なぜ難しいのでしょうか。なぜなら、身体意識がとても強いですから。それを取り除かないと「魂意識」はできません。

ギャーナ・ヨーガが好きな人はけっこういます。ラーマナ・マハーリシ、クリシュナムルティを読んで面白いと感じます。ですが、実践のときにたくさんの矛盾が出ます。勉強のとき「私は魂」でも、食事のとき、お風呂に入るとき、ヨーガのとき「私は身体」です。いつも身体意識ですから、突然「私は魂」と言われても全然イメージ、印象が出ないですね。

バガヴァッド・ギーター、ウパニシャッド、ヴェーダも全部、言っているのは一つのことだけです。「私は身体ではない、私は魂です。粗大な体ではない、精妙な体ではない、私は魂です」、それだけです。それだけは理解してください。

これほどたくさんの本、物語、説明、例がどうして必要なのでしょうか。それは、何回聞いても印象が出ないからです。もっと聞かないといけない。もっと考えないといけない。一回だけでは何も印象は出ません。そのために、**何回も何回も勉強、聞く、勉強、聞く、考える。それでだんだんだんだんゆっくりゆっくりとそのイメージが出ます**。

人間より神の方がレベルが高いですが神々（普通の神）も魂について分からないです。なぜ分からないのでしょうか。なぜなら、神々にも楽しみの願いがあり楽しみの欲望を続けているからです。普通の神は欲望を続けています。欲望を続けていますから絶対に魂意識は出ないです。

なぜなら、欲望の基礎は何ですか。身体ではないですか。身体がなければ欲望はないです。自分の身体、粗大な体、精妙な体、それらのイメージが全くなければ欲望は出ないです。絶対に出ません。

そしてヤマは言っています、「普通の神もそのことについて疑いがあり理解しない。あなたは子供ですから、私が言ってもたぶんあなたは理解しない。私の話は無駄になります。私は約束しましたからあなたの願いをもう一つかなえます。別の願いを考えてください」と。

「アンニャㇺ　ヴァラㇺ　ヴリニーシュヴァ」が「別の願いを考えてください」です。そして、「その質問はしないでください」と言っています。

［付記（Ｑ＆Ａ）］

１．神様の体について

　神様の体とは精妙な体、原因な体（ウパニシャッド講話-7参照）のことです。粗大な体ではないです。

２．理解と悟りの違いについて

我々は頭で理解しますね。知性によって理解します。しかし頭で理解してもやり方（行動）が違う可能性があります。

例えば、お酒をたくさん飲むのは身体のためによくない。それを頭で理解していますが、飲むときにそのことを忘れています。身体のためによくない、心のコントロールのためにもよくないことを頭で理解できています。ですが、やり方がその理解と違います。それは矛盾ではないですか。

我々は、身体のレベル、心のレベル、会話のレベルの３つのレベルで活動しています。例えば、或る人に会ってあなたは「会えてうれしいです」（会話のレベル）と言っています。本当は考え（心のレベル）は全く反対（笑い）。嫌いですがそれを言わないです。その可能性がありませんか。

「私は神様を愛しています」と口で言っていますが、本当は神様をそんなに愛していない。家族をたくさん愛しています。自分の息子、娘、孫、奥さん、旦那さんを愛しています。話（会話のレベル）、考え（心のレベル）、やり方（身体のレベル）、それらが一致していません。矛盾ですね。しかし、悟りますと絶対に矛盾は出ません。

とても分かりやすい例を挙げます。たくさん勉強して「私の身体はなくなりますが私は本当は魂ですから、身体がなくなっても魂はなくなりません」と頭で理解しました。でもどうして死の恐怖が出ていますか。矛盾ですね。頭で理解していても大きな病気がありますとけっこう死の恐怖が出ます。矛盾ではないですか。悟りますと死の恐怖は出ないです。

西洋の有名な哲学者のショーペンハウアーはこう言っています、「私は同じ部屋に毒があるヘビと一緒にいても怖がらない」と。どうして怖がらないのでしょうか。

「私はウパニシャッドを勉強しました。もしヘビが私を噛んだとしても、身体はなくなりますが私はなくならない。そして死の恐怖はないです」と言っています。ウパニシャッドは頭で理解しただけでは死の恐怖はなくならない。欲望はなくならない。執着はなくならない。束縛はなくならない。無知はなくならない。悟りますと死の恐怖はなくなります。無知はなくなります。自由になります。それが大きな違いです。それが理解と悟りの違いです。

以上